



地域のコミュニティと
ゆとりある未来のまちづくり

雪国の冬を変えた
大石田地区消流雪用水導入事業

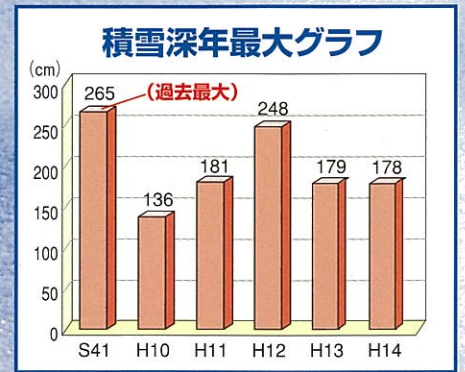
これまで、

冬の間、豪雪の処理に計り知れない時間と労力を強いられてきました。

大石田町冬期の状況

山形県のほぼ中央部に位置する大石田町は、降雪期間が12月中旬から4月上旬までの長期にわたっており、近年(平成10~14年)における降雪状況は、最大積雪深248cmを記録するほどの豪雪地帯です。

当地での除雪作業は、過酷な労力と時間を費やしてきました。また、処理しきれない雪は道路交通を著しく阻害するなど、住民生活に多大な支障をきたしてきました。



整備前

想像を絶する雪との闘い!



すれ違いが困難な幹線道路。



通学・通勤に危険な路肩に積み上げられた雪。

官民一体の取り組みにより、

官民一体



国土交通省

消流雪用水導入
導水路等の整備により最上川からの安定的な水を確保

山形県、大石田町

流雪溝の面的整備
国道と、県道・町道とを面的に一体的に整備し、まちづくりとあわせて実施

住民

管理運営
管理組織を立ち上げ施設の管理運営を実施

住民主体の コミュニティ



すべてボランティアでの手づくり看板

これからは、

雪の処理もラクになり、
安全で快適な冬を過ごせるようになります。

事業の概要

当事業は、東北で4箇所目（山形県長井市、真室川町、青森県弘前市）として平成12年度より着手し、3年の歳月をかけて平成14年度に完成しました。

この事業によって水源を確保し水不足を解消。雪づまりの心配もなくなり、除雪作業の軽減と安全な道路交通の確保にも役立つとともに、住民間のコミュニティが生まれ、町の活性化も期待されます。



整備後

雪がまちから消えた！



投雪中の状況



除雪作業がスムーズになり道路も広がって、冬とは思えない幹線道路となりました。

大きな成果を上げています。

新たな管理体制などにより、
効果が広がりました。

三段階方式の管理体制

町内会毎流雪溝利用協力会

水系毎流雪溝利用協力会

流雪溝利用協力会連合会

利用協力会の主な特徴

- 全役員無償ボランティアであること
- 利用する水系毎の管理組織をつくったこと
- 地区毎全てにサブリーダー制を導入したこと

喜びを語る住民のみなさん

清水さん



これまでは、冬場は朝1時間、夕方1時間の雪下ろし・雪かきによる重労働のため、体重が減ってしまう“雪やせ”になる。施設ができたことで、労働がかなり軽減された。

二藤部さん



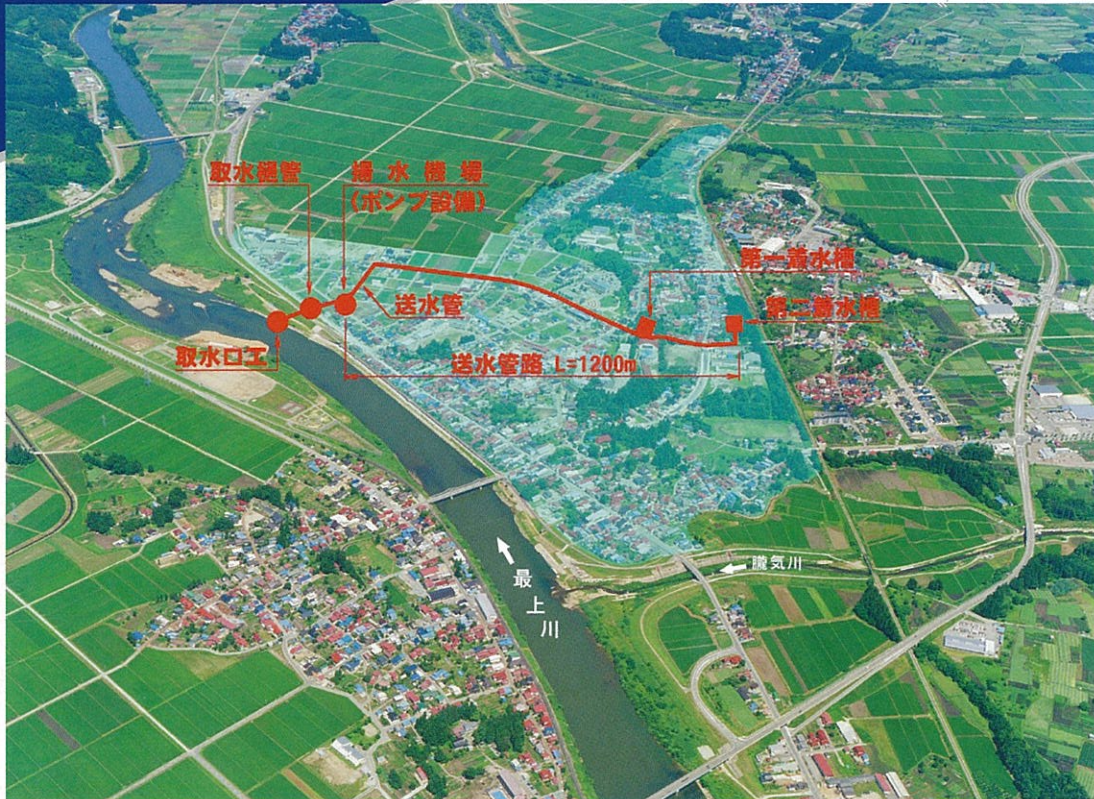
これまでは、一斉に雪を流雪溝に捨てるので水があふれることがあった。施設ができたことで、町内会を越えた交流が生まれ、まちが活性化した。

松沢さん



大半の町民が大喜びしている。道路も真っ直ぐになり、便利になった。あとは、上手に利用し、モラルを高めていく必要がある。

■事業計画区域



消流雪用水は、最上川よりポンプ取水し、大石田地区内に分水します。

計画概要

対象地域	105ha
対象人口	5,100人
対象戸数	1,300戸
取水地点	最上川右岸 58.6km
導水量	最大1.3m ³ /s

施設概要

取水口工	1箇所
取水樋管	1箇所
揚水機場	1箇所(ポンプ設備)
送水管路延長	1.2km
着水槽	2箇所



揚水機場



ポンプ室

国土交通省 東北地方整備局

新庄河川事務所

〒996-0071 山形県新庄市小田島町5番55号
TEL.0233-22-0251